



地震

タイトル：災害リスクが少ない地域にBCPの拠点を設置

ポイント

- 東日本大震災をきっかけに、親会社の万が一に備えたBCP拠点を設置
- 災害発生時に製造を継続できるよう、地元企業との協力体制を構築

BCP策定のきっかけ

- 親会社の株式会社大川原製作所は90年以上の長きにわたり食品・化学・医薬・環境など幅広い分野における世界でもトップレベルの「乾燥技術」を事業ドメインとして、乾燥装置を中心とした製造設備を国内外に提供するメーカーとして知られている。親会社は静岡県榛原郡の大井川河口近くに位置するが、当該地域は地震の発生確率が高く、かねてより他地域の拠点が必要であると考えていた。そのような中、一番のきっかけとなったのは東日本大震災である。親会社の近隣には原子力発電所があり、東日本大震災の被害を踏まえ、事業継続の観点から、特に今後成長が期待される医薬で用いる製造装置を専門に担う新たな拠点を探すようになった。

BCP策定時の課題と解決方法

- 一番の課題は立地場所の選定。BCPの観点で、地理的に遠いところが念頭にあり、九州が候補にあがった。その中で長崎は地震などの災害が少ないこと、明治以降の造船業を中心として発展したことにより「ものづくり」への環境が整っていることに加え、親会社のある静岡と気候や特産物が似通っていること、さらに企業立地にあたっての補助制度が充実していたことから、長崎を候補地とした。
- 次の課題は、高度な技術力を有する協力企業を長崎県内で見つけることにあった。「ものづくり」への環境が整っているとの認識はあったものの、医薬用の製造装置はオーダーメイドであり、高度な溶接技術等が求められる。このため、立地にあたっての資金的な補助制度のみならず、長崎で創業を開始する前から、マッチングフェアへの参加や県のサプライチェーン構築事業等の活用を通して、地元企業と協力体制を構築。
- こうした取組の結果、2018年にBCPを策定した上で、「大川原製作所」を中心としたオーカワラグループのBCPの拠点として2020年2月にオーカワラテック（株）を創業。

策定した内容

- 災害等が発生した際に、製造が止まり、顧客に対し、製品を提供できなくなるリスクを懸念。親会社が手掛ける食品・化学・環境分野は親会社が被災しても他企業でカバーしやすい分野である一方で、医薬分野は高度な技術が要求されるため、他企業で直ぐにカバーできるものではなく、創業90年以上の長きにわたり培った経験、実績による高い技術を有する同社だからこそ製造できるものであった。顧客の要望、課題解決に、よりスピーディーに対応できるよう、また万が一災害等が発生した際に自社で製造を継続できるよう、医薬分野に特化した会社を設立するとともに、創業間もない会社に不足する能力を補うため、あらかじめ立地場所の長崎県に所在する協力会社も見つけ協力体制を構築。

BCP策定後の効果

- BCPを策定し、BCPの拠点ができたことで、医薬分野における生産体制の見直しにとどまらず、グループ全体として事業継続するための体制構築も行うことができた。また、BCPの拠点という点をアピールすることで、長崎で創業して間もないが、長崎で知ってもらうきっかけにもなっていると感じている。



会社の外観



当社製品

【会社概要】

企業名：オーカワラテック株式会社
所 在：長崎県諫早市久山町2014番地39
資本金：9,500万円
従業員数：20名
業 種：生産用機械器具製造業
企業HP：<https://okawara-tech.com/>

活用施策

- ・長崎県の誘致企業に係る補助制度